病院情報誌　第55号　平成28年６月22日発行

ろうさい病院つうしん

発行所：中部ろうさい病院　〒455-8530　名古屋市港区港明１-10-6　TEL：052-652-5511
http://www.chubuh.johas.go.jp/　FAX：052-653-3533

副院長就任のご挨拶

中部ろうさい病院　副院長
外科・消化器外科部長　坂口　憲史

平成28年４月１日付けで副院長を拝命し、地域医療連携担当となりましたので一言ご挨拶申し上げます。

私は、これまでがん医療を中心とした外科を専攻し、『手術で治す』を念頭に日々研鑽してまいりました。治癒のためには拡大手術、高度侵襲手術も辞さない覚悟で、手術を学び、技術の向上に努めてまいりましたが、近年の患者の多様なニーズ、疾患についての詳細な知見、技術・手技の進歩により、低侵襲手術でも同等の効果が望めるようになりました。大きな手術創から小さな手術創へ、小さな手術創から鏡視下手術へと外科治療は進化し、低侵襲になれば、回復が早く入院期間も短縮できます。以前は、術後１ヶ月近く入院していた手術が、今では５日から１週間で退院できるようになり、社会復帰も早くなりました。

しかし、未だ全てのがん患者を手術で治すことはできず、手術適応がなかったり、不幸にして再発する患者がみえます。そこで、治せなかった患者の治療として、「緩和ケア」を当院では始めました。初めは終末期医療≒緩和ケアでしたが、今では、がんの診断時から緩和ケアを始めるようになりました。現在の私の仕事は、外科と緩和ケアが両輪となっています。

また、今年から地域医療連携を担当させていただくこととなり、改めて地域医療について考える機会にしたいと思っています。地域医療圏において当院が果たすべき医療を考えたとき、地域医療機関との連携が非常に大切であります。私も不肖にしてこれまで、地域医療機関の医療者の方と直接お話しする機会はあまりありませんでしたが、今後は“顔の見える関係”を築いていきたいと思います。

現在、当院は地域医療支援病院、愛知県がん診療拠点病院、災害拠点病院等の施設認定を受けており、今後も、地域医療に貢献できるよう取り組んでいきたいと考えています。

今後とも、当院へのご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げて、副院長就任のご挨拶とさせていただきます。

循環器内科部長就任のご挨拶

循環器内科部長　酒井　慎一

当院連携医の先生方には、平素より大変お世話になっております。前任の植谷忠之循環器内科部長が退職しご実家を継がれたため、その後任として平成28年１月１日付けで、愛知厚生連海南病院より名古屋大学循環器内科の医局人事にて異動して参りました。

私は春日井市の出身で高校は旭丘高校を卒業し、平成５年に岐阜大学医学部を卒業しました。内科の研修を近隣の協立総合病院で行い、平成10年に名大第３内科に入局し、市立四日市病院に赴任し循環器の専門的な研修を受けました。その後、平成17年に帰局しましたが、当時の海南病院の循環器部長の退職に伴い、平成18年に若輩者ではありましたが、循環器内科の代表部長として赴任しました。それから、約10年間、海南病院で循環器内科部長としてCCUの立ち上げやCCU当直体制を築き、地域の循環器救急の体制を発展させて参りました。この経験を活かして、今後さらに中部労災病院の発展に貢献できればと考えております。

本年４月よりスタッフは、研修医から２人が入って総勢11名となり、若手も多く活気ある循環器内科になっています。現在、今まで通り虚血性心疾患の治療を中心に行っていますが、昨今appropriate PCIが求められており、当院においても負荷心筋シンチやFFRを積極的に使用して適切な虚血の機能的評価を行って、適切な治療を心がけています。また、昨年、名古屋大学より因田恭也准教授の下でカテーテルアブレーションを修行してきた長尾医師が当院に赴任してきたことで、心房細動を含めた不整脈に対するカテーテルアブレーション治療は順調に件数が増加しています。さらに、２年前より心臓リハビリテーションにも力を入れており、名古屋大学保健学科山田純生教授の指導の下、原田憲第二循環器内科部長を中心に、心不全、虚血性心疾患患者のリハビリを行い、再発予防に医師、看護師、

薬剤師、管理栄養士、リハビリなど病院スタッフ全体で取り組んでいます。

さて、機器の故障により一旦運用を見合わせておりました「ろうさいハートホットライン」が、この度再開する運びとなりましたので、この場を借りてご案内させていただきます。循環器疾患に関して緊急を要する症例または判断に迷われるような症例がございましたら、直接、ホットラインへご連絡いただければ、当院の循環器内科医師が電話対応いたしますので、ご利用いただけますようよろしくお願いいたします。電話番号に関しては、再度、地域医療連携室よりご案内させていただきます。

最後になりますが、連携医のますますのご発展をお祈りし、今後とも当院循環器内科へのご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げて、私の就任のご挨拶とさせていただきます。

当院における脳血管内治療体制作りと今後の展望について

脳神経外科部長　**松原　功明**
（日本脳神経血管内治療学会専門医・同指導医）

私は、2000年に名古屋大学医学部を卒業し、最近の10年間は主に名古屋大学にて脳血管内治療の臨床及び研究を行って参りました。2016年３月に中部ろうさい病院に赴任し、前任の服部和良部長の後を引き継いで、脳血管内治療を中心に脳神経外科診療を担当させていただいております。

脳神経外科領域において、脳血管障害の治療は大きなウエートを占めており、その中でも脳血管内治療の役割は増大してきております。当科と致しましても、積極的に脳血管内治療を進めていく方針です。

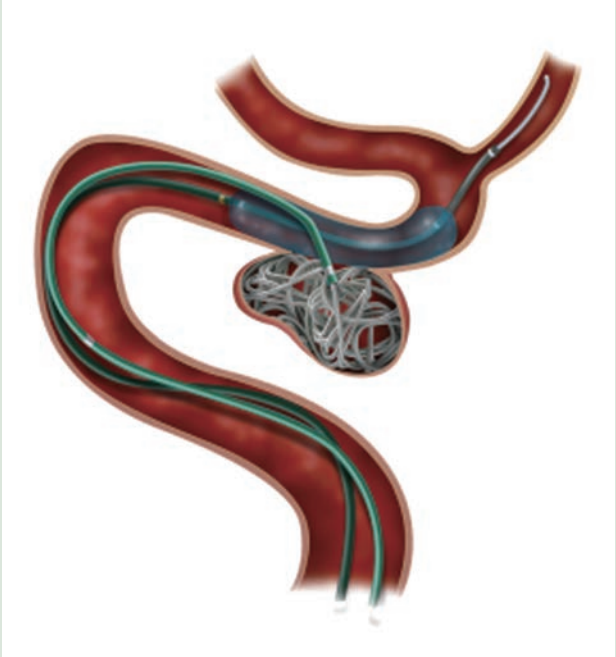
脳血管内治療は、開頭手術に比べると手術時間が短く、創処置が不要であり、術後管理も行いやすくなります。また、患者さんにとって低侵襲であることは周知の事実ですが、医療スタッフの負担も軽減されるというメリットがあります。現在、当科の脳神経外科医は２名と限られた人数であり、脳

血管内治療は、限られた脳外科診療体制において、より効率的に脳血管障害患者の治療を行う有効な方法であると考えております。

現在、脳血管内治療を行う体制作りを進めています。ハード面では、昨年11月よりPHILLIPS社製の最新鋭血管撮影装置（Allura Clarity）を導入し、バイプレーンフラットパネルシステムにより画質が大きく向上し、付属のワークステーションでは、即座に3D血管撮影画像の作成が可能となりました。ソフト面では、神経内科と合同で急性期脳卒中に対する治療チームの体制作りを進めております。既にiPadを使用した画像転送システムを用いて、夜間休日においても迅速な画像診断を行う体制が整っております。また、名古屋大学脳神経外科脳血管内治療チームと連携することで、常時、脳血管内治療医による応援が得られる体制となっています。

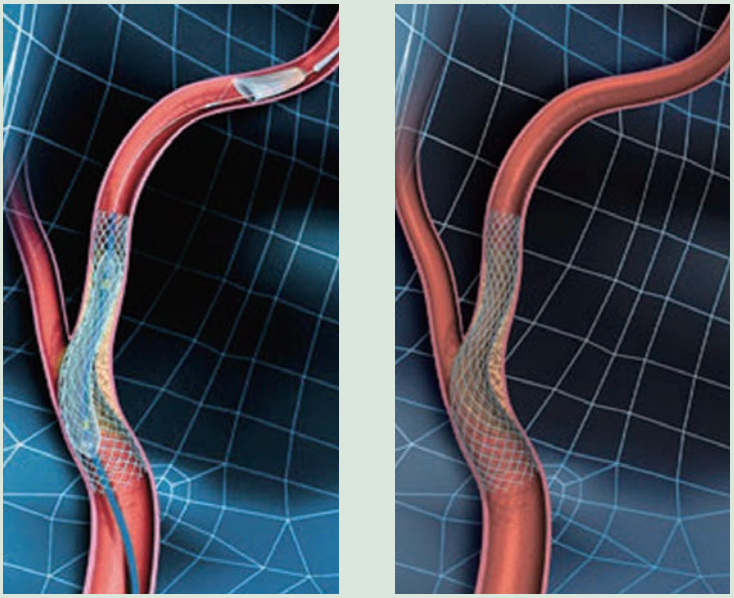
脳血管内治療の主な対象疾患としては、⑴ くも膜下出血の原因となる脳動脈瘤に対するコイル塞栓術、⑵ 頸部頸動脈狭窄に対するステント留置術（CAS: carotid artery stenting）、⑶ 急性期脳主幹動脈閉塞に対する急性期血行再建術　があります。

⑴　破裂脳動脈瘤に対する治療としては、開頭クリッピングが従来行われてきましたが、2002年の国際研究(ISAT：International Subarachnoid Aneurysm Trial）の発表以降、欧米では、コイル塞栓術がメインとなり、現在では脳動脈瘤治療のおよそ８割がコイル塞栓術にて行われているようです。本邦でも、侵襲が少なく術後成績の優れたコイル塞栓術が増加してきています。脳動脈瘤に対する当科の治療方針としては、コイル塞栓術を優先したいわゆる「コイルファースト」で取り組む方向です。



脳動脈瘤コイル塞栓術
（MicroVention社ホームページより）

⑵　頸部頸動脈狭窄に対する治療としては、頸動脈内膜剥離術（CEA: carotid endarterectomy）が行われてきましたが、2008年の頸動脈ステントの保険収載以降はCASが増加し、本邦での施行件数は、既にCASがCEAの約２倍となっております。当科の治療方針としては、「CASファースト」で取り組む方向です。



頸動脈ステント留置術
（Boston Scientific社ホームページより）

⑶　急性期脳主幹動脈閉塞に対する急性期血行再建術は、当領域では今最もホットな話題です。複数のランダム化試験で、ステント型血栓回収デバイスの有効性が証明されました。その結果を踏まえ、2015年のAHA/ASAガイドラインではClass Ⅰの推奨となりました。当科においても、ステント型血栓回収デバイス（Trevo, Solitaire）や血栓吸引カテーテル（Penumbra）を使用し、積極的に急性期血行再建術を行う方向です。

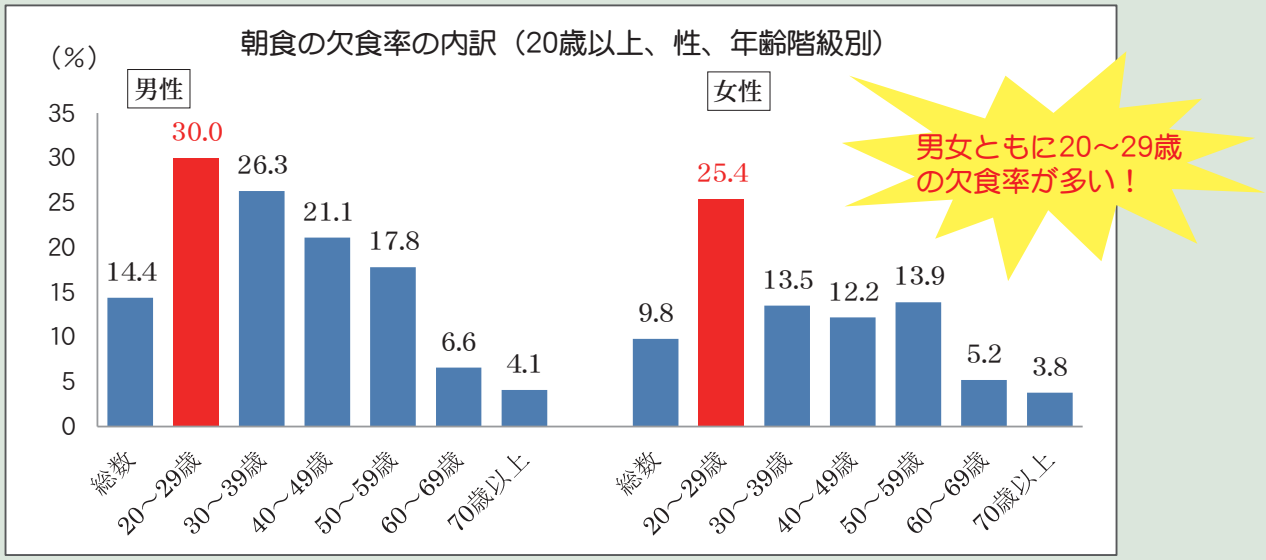
急性期血栓回収療法
（Stryker社ホームページより）

一次診療医の先生方とも連携しながら、脳血管障害の治療を進めていきたいと考えております。今後ともご協力をお願い致します。

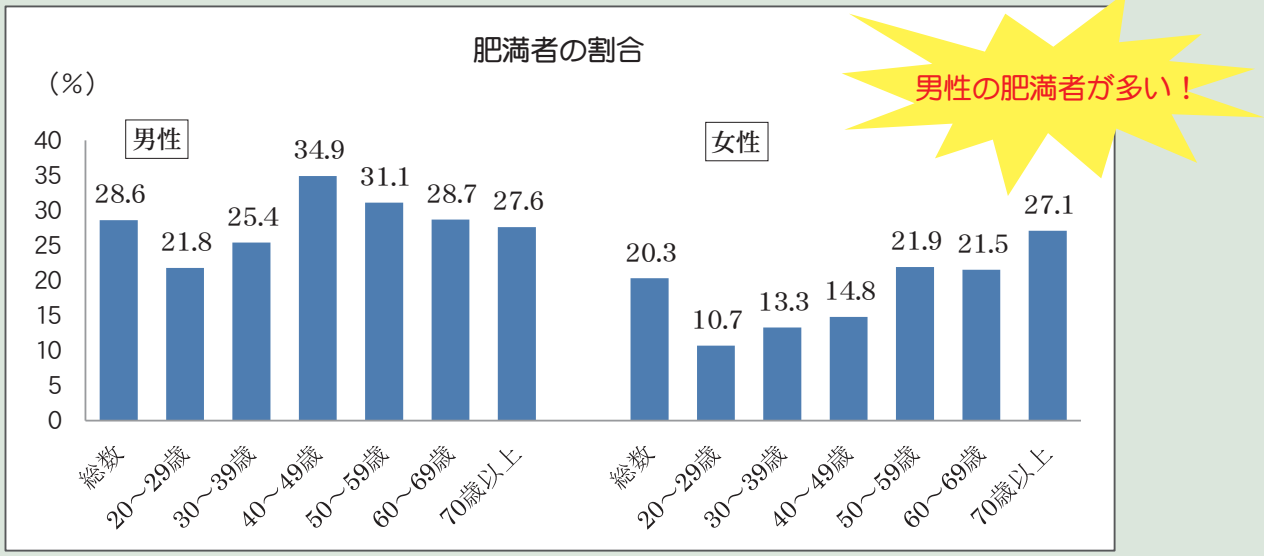
栄養コラム 朝食を食べよう！！ ～朝食は元気の活力源～

栄養管理部　恒川　裕子

朝食を毎日食べていますか？「平成25年国民健康・栄養調査では、朝食の欠食率は全体で男性14.4％、女性9.8％であり、性・年齢階級別にみると、男女ともに20歳代で最も高く、男性で30.0％、女性で25.4％でした。



平成25年国民健康・栄養調査報告（厚生労働省）より



平成25年国民健康・栄養調査報告（厚生労働省）より

〈特徴〉①男女ともに20～29歳の欠食率が高い。女性は20歳代にやせの割合が多く、やせ願望やダイエット志向が考えられる。
②どの年齢階級においても女性より男性の方の欠食率が高く、朝食に対する意識が低いことが分かる。男性は女性に比べて肥満者の割合も多く、生活習慣病予防において若年層から朝食を摂取することが大事である。

〈まずは朝食を食べる事からはじめましょう！〉

手軽に食べられるものとして、パン＋ヨーグルトやフルーツなどはいかがですか？パンにチーズをのせたら、栄養価がアップするのと同時にカルシウムも摂れます。愛知県は野菜摂取量が最下位なので、野菜も積極的に食べたいところです。野菜ジュースやサラダなど上手に活用しましょう。

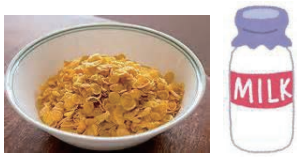
朝食メニュー　～自宅編～

食パン（6枚切１枚）
155kcal　たんぱく質5.4ｇ
カルシウム7mg

チーズトースト+野菜ジュース
249kcal　たんぱく質9.5ｇ
カルシウム129mg

94kcal　たんぱく質4.2ｇ
カルシウム122mg
ビタミン・ミネラルUP

シリアル（30ｇ一皿分）
113kcal　たんぱく質1.6ｇ
カルシウム0.3mg



シリアル＋牛乳200ml
247kcal　たんぱく質8.2ｇ
カルシウム220mg

134kcal　たんぱく質6.6ｇ
カルシウム220mg　UP

朝食メニュー　～コンビニ編～

食パン（6枚切１枚）
155kcalたんぱく質5.4ｇ

ミックスサンドウィッチ+野菜ジュース
376kcal　たんぱく質14.7ｇ

221kcal　たんぱく質9.3ｇ
ビタミン・ミネラルUP

おにぎり
184kcal　たんぱく質4.3ｇ

おにぎり+サラダ
299kcal　たんぱく質6.2ｇ

115kcal　たんぱく質1.9ｇ
ビタミン・ミネラルUP

若年者ほど朝食の欠食率が高い傾向にあります。今一度、朝食について考え直してみませんか？朝食を食べて、いきいき活気ある１日を送りましょう。

地域医療連携室だより

病診連携セミナー・意見交換会を開催しました

平成28年２月６日（土）、ローズコートホテルにおきまして、「平成27年度病診連携セミナー」開催いたしました。

セミナーは、第Ⅰ部「肝疾患における最近の話題」として消化器内科の村瀬賢一副院長、第Ⅱ部「消化器がん手術について」として消化器外科の坂口憲史副院長の２部構成で行い、消化器内科、消化器外科のコラボレーションによる連結セミナーの中で、消化器疾患治療の集約化と治療の最新のトピックを情報提供し、多数の連携医療機関の先生方にご出席をいただきました。

また、セミナー終了後、セミナーと同時開催いたしました病診連携システム運営協議会にご出席いただきました先生方とともに意見交換会を開催いたしました。

日頃からお世話になっている連携医療機関の先生方と、当院の診療科医師、スタッフが、face to face で意見交換できる貴重な機会であり、さまざまなご意見を頂戴することができました。

次回の病診連携セミナーは、糖尿病をテーマとして夏期に開催予定としております。多数の先生方のご参加をお待ちしております。

医師交代

☆定年退職
（平成28年３月31日付）
南木　道生　副院長

☆退　職
（平成28年３月31日付）
湯川　泰紹　整形外科部長
照井　隆行　眼科部長代理
大山 友香子　腎臓内科副部長
佐藤　文哉　外科・消化器外科副部長
細野　功　消化器内科医師
前川　道隆　心療内科医師
神山　潤二　呼吸器内科医師
川人　瑠衣　リウマチ科医師
横井 紗矢香　耳鼻咽喉科医師
小内　裕　糖尿病・内分泌内科医師
奥村　聡　循環器内科医師
白木 真由香　小児科医師
湊口　俊　腎臓内科医師
宮田　知里　形成外科医師
青柳 えみか　リハビリテーション科医師
平野　洋子　麻酔科医師
（平成28年４月30日付け）
大口　雄也　形成外科医師

☆採　用
（平成28年４月１日付）
坂井　隆夫　眼科部長代理
鬼塚　貴光　呼吸器外科副部長
髙杉　浩司　リウマチ科医師
山本　真理　リウマチ科医師
上間　貴仁　腎臓内科医師
真宮 久美子　循環器内科医師
春田　由貴　呼吸器内科医師
松永　俊　循環器内科医師
多賀谷 知輝　腎臓内科医師
楊　承叡　耳鼻咽喉科医師
大西　知広　循環器内科医師
毛利　太郎　病理診断科医師
佐藤　愛　糖尿病・内分泌内科医師
河野　優　麻酔科医師
柴田　真由　産婦人科医師
（平成28年５月１日付け）
栗原　里美　形成外科医師

☆補　職
（平成28年４月１日付）
丸井　伸行　副院長
坂口　憲史　副院長
岡　義春　整形外科部長
伊藤　圭吾　第二整形外科部長
山口　仁　第三整形外科部長
片山　良仁　第四整形外科部長
今峰　ルイ　第二糖尿病・内分泌内科部長
（平成28年６月１日付）
髙杉　浩司　腎臓内科副部長

当院の理念

納得、安心、そして未来へ

当院の基本方針

- 医療の質の向上と安全管理の徹底
- 生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- 人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- 地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- 災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

☎地域医療連携室　（平日　8：15～19：30）
052－652－5950（TEL）
052－652－5716（FAX）

室　　長：加藤　文彦（院長）
　　坂口　憲史（副院長）
事務担当：今関　信夫・鈴木　美有・
　　内藤　遵子・金井　久実